

2022 年度地域産業とクリエイティブ人材マッチングモデル事業

アーティスト × 地域産業
アイデア → 試作制作 → 販路までを考える 120日間

報告書

有限会社日の出企画

事業のねらい／課題解決策の提案

地域産業とは、町工場などの中小企業で地域の特性や資源に基づいて発展した産業ですが、地域産業は不況下で下請けとしての立場に陥りやすく、利益率が低くなったり、発注元の影響を受けやすくなったりする課題があります。そこで地域産業は下請けからの脱却を目指して、オリジナルブランド商品をオンラインで販売したり、ワークショップを提供したりするなど、自らの強みや特色を生かした自社ブランドの開発や新しい市場の開拓などの取り組みを行い、より高付加価値な商品やサービスを提供することが求められています。一方でアーティストや作家は、創作活動だけでは生活がままならない方が多いという現状があります。社会では経済的な生産性や合理性が優先されることも多く、創作活動は孤独で不安定なものになりがちです。独創的で魅力的な発想を持っていても、それが理想的に社会活動に直結する例は僅かであると言わざるを得ません。

しかし、両者の課題は互いに補い合うことができます。アーティストは自分の作品やスキルを活かす場が与えられれば新たなビジネスチャンスをつかむことに繋がり、企業は、ブランドを引き立てるためのニーズに合ったアーティストを見つけられるかもしれません。また企業の課題に対してアーティストは、アートによる解決方法を提供することで、社会的な価値を生み出す可能性を秘めているはずで

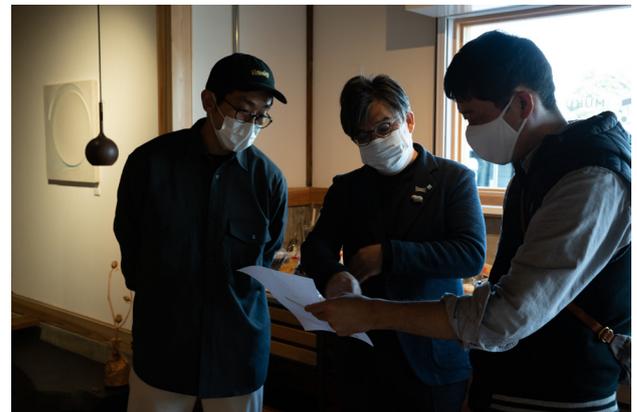
そのような課題解決策を想定のもと、本事業では、互いの弱点を補い合う可能性を持った両者をマッチングする場を創出することで、新しい仕事のスタイルをつくることをねらいとしています。

対象

事業の対象は、静岡県東部の地域産業として鉄工所や製材所、家具の製造などのものづくり企業を想定しています。アーティストとは、音楽や美術、映像などの様々な芸術活動に携わる芸術家や、木工や鉄工などの作品制作をしている作家を指します。

アートを実践する者の代表者として地域で活動する造形作家であるアーティスト、地域産業の代表者として地元の製造業者、そして、その中間的な立ち位置として地域のデザイナーを事業の対象として、静岡県東部を中心に募集しました。また、地域の特徴を客観的に捉えられる点として、東京で活動するアーティストを迎え入れて実施しました。

制作するプロダクトは3点で、それぞれのプロダクトごとに別々のアーティストと地域産業、デザイナーが関わります。試作品展示会では、不特定多数の一般客に向けて成果物を公開します。静岡県を内側の視点と外側の視点で比べるために静岡側に2チーム。東京側に1チーム。で試作品の制作に取り組みました。



社会的役割や効果

本事業は静岡県東部地域におけるアートと地域産業の役割と実践において、相互理解と連携を深めるための仕組みの創出を目指すものです。地域産業がもつ特色や技術と、アーティストがもつ自由な発想や感性を結びつけて、オリジナルなプロダクトデザインを創出します。これらのプロダクトは、量産品とは異なり、より強く地域産業とアーティストの個性や芸術性が反映された社会的価値があります。このような社会的価値を提示することで、地域産業の新たな可能性を導き出し、アーティストの活動支援につなげます。地域産業とアーティストの連携は、両者の課題を解決するだけでなく、互いに刺激し合いながら新たな価値を創造することができる取り組みです。

また、試作品による展示会を開催して、第三者からの意見を参考にしながら、プロダクトの完成度を向上させることを目指します。これらの取り組みを通じて、地域に眠っていたアーティストや産業の魅力を再発見・再活用することで、地域経済や、地域の文化振興に寄与していくものとします。

事業内容

本事業で実施した内容は二つです

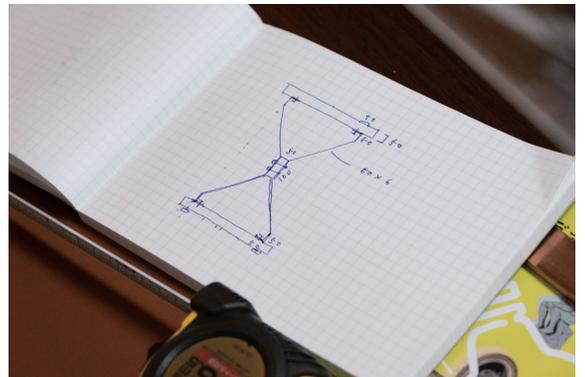
1. プロダクトデザイン試作品制作
2. プロダクトデザイン試作品展示会

事業内容 1. プロダクトデザイン試作品制作

静岡県東部を拠点とするアーティスト、地域産業の事業者、デザイナーに対して、共同で実施するプロダクトデザインを依頼、制作しました。

共同するアーティスト、地域産業の事業者、デザイナーはチームであり、合計で3つのチームに分かれて制作をしました。

最終的に成果物として展示した作品は合計3点です。



試作 | #001 稼働式カウンター

アーティスト：小端吾郎

地域産業：キタ工業株式会社

デザイン：LivingD 第一建設株式会社

キタ工業株式会社の金属加工技術を活用して、テーブルを制作しました。天然木の無垢材の天板は小端吾郎の発案で、それを支える脚部の真鍮材の加工はキタ工業株式会社の技術が活かされています。天然木素材の提供とデザインの図面の作成は第一建設株式会社が行いました。脚部の造形において、生産性を重視すると単純化された形状になりがちですが、このチームは、彼らが理想とする美しい形状を実現することに焦点を当て制作しました。またこの造形は、真鍮の質感を活かしながら、華奢な剛性をカバーするために、真鍮をくの字に折り曲げ、その間に木材を挟み込んで固定することで、歪みを抑えるような工夫が施されています。



また、この稼働式カウンターはコーヒーテーブルを用途として想定しており、専用のドリッパーをうるし作家でもある小端吾郎が担当し制作しています。

このカウンターとドリッパーは、人目を集めることで造形的な魅力が発揮されるようなケータリング等で使用する場面を想定していますが、一般家庭や日常的な場面でも使用することができるプロダクトになっています。



小端 吾郎 Goro Kobashi

ものづくり大学卒業。(株)小西美術工藝社にて日光東照宮、皇居乾門、根津神社など文化財の漆塗装の修復に携わる。2012年駿河漆器安藤氏の下で小物の漆塗りを研修。2013年から熱海楠細工にて指物と漆塗りを学ぶ。

キタ工業株式会社

キタ工業株式会社長泉工場は、静岡県駿東郡長泉町にある金属製品の製造・販売を行う会社です。板金加工や溶接などの各種金属加工を得意とし、コンピュータを使ったハイテク加工も行っています。

LivingD 第一建設株式会社

1948年に創業し、現在は静岡県内に4つの支店と1つのスタジオを持っています。LivingDというブランドで、お客様のライフスタイルに合わせた住まいづくりを提案しています。



試作品創出に果たした役割として

アーティスト：小端吾郎氏

三島市の製材業者に勤務の傍ら木工作品の制作をしている同氏。今回の試作品では、稼働式カウンターの天板部分の制作を担当しました。樹種の選定でも作品作りで培った感性により、会場に合う色目でチョイスしたり製材部分にもかかわってもらいました。

その過程の中で、カウンターの利用者の想定をしながら同時に使う珈琲ドリッパーの制作など小物制作も担ってもらいました。珈琲ドリッパーにしたのは、会場であるコワーキング内で創業支援をしており、カフェ開業やコーヒー焙煎のお店を開くなどコワーキングが珈琲に関わる職種の開業が多いという需要を捉えての選定からです。共創でのミーティングを繰り返した結果『実用性と作品のバランス』、つまり実用性とは使う側の発想や需要からの製品づくり、作品とは創作側の意図を反映させたものづくりの結果、できた製品を意味します。その双方の観点を備えた結果が出てきました。

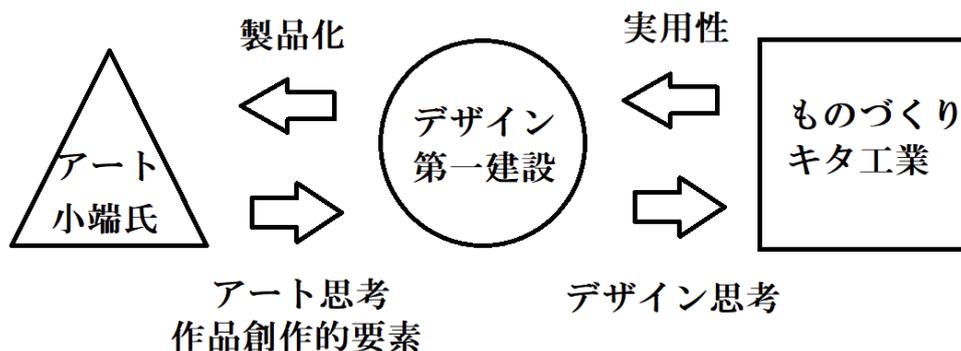
共創の成果として『制作途中に起こる化学反応』とも言え換えられると思います。ここでいう化学反応とは試作品作りの過程で作る側の意図を大切にしながら使う側の視点を持ったデザインとの共創により、妥協でなく良さを生かした新しいものづくりの方法の模索が起こったと考えることができます。

地域産業：キタ工業株式会社

地元の中企業だけでなく大手からの板金加工や溶接加工を伴う発注も受ける同社。今回の試作品では、デザイナーの図面づくりの鉄部材のアドバイス他、真鍮という溶接や加工の難しい部材に対しての加工上のアドバイスも頂きました。設計を担当した建築会社との間に入り、真鍮素材を脚材にしていく調整をしてもらいました。真鍮という素材にチャレンジしようとした理由は、住宅設備としての真鍮素材の電気の傘などは売れ筋商品でもあり素材としての魅力があるので、販路という意味でのチャレンジと見た目の美しさから選定しました。技術的に難しい部分はデザインで解決しました。

デザイン：第一建設株式会社 後藤昇氏

工務店として富士市を中心に新築やリノベーション、不動産事業を手掛ける同社。住宅設備の提案として、大量生産による市販品があふれる住宅設備だけでなく、多様な顧客ニーズを満足させるためアーティスト作品を提案の中に取り入れています。今回の試作品では、第一建設が仕事上関係のある木工作家小端氏にアーティストとしての参加をしていただき、地域産業側のデザインで調整するキュレーター的な役割としても関わって頂きました。



結果として出来上がったもの

一点ものの作品とも違い、量産品とも違うものが創出されました。一般的な量産品は製品になるところまですべて同じもので経年変化しにくい素材や塗装をして製作しますが、今回の試作品は天然木に合わせるように素材を活かし、真鍮も経年変化が起こるよう無塗装としました。バルンサーとしてのデザインはアートと地域産業をつなぐ通訳者という役割を担い、アーティストの発想を図面を通じて具体化させることができました。アートやものづくり企業など業界の常識にとらわれない発想からは、一点ものでもないし量産品でもない価値観のものが生み出される可能性があり、今までとは違うものづくりへの発想から始まる新規事業のネタとなりうる試作品が誕生する可能性を期待することができます。

今回の成果として作られた試作品の稼働式カウンターは、アーティストにとって作品制作で培った木工加工のスキルを活かした副業になる可能性があります。ものづくり企業にとってはエンドユーザーの視点をデザイナーから得て、作品的な価値をアーティストから得ることにより、単価があがる可能性だけでなくビジネス化できる新規事業のネタにもなりうるかもしれません。

試作 | #002

コーヒー器具

アーティスト : atelier plateaux

地域産業 : 有限会社 松和製作所 / FERRET COFFEE

デザイン : 株式会社アオイ建築

コーヒー生豆を自分で焙煎する器具で、一般的に手網と呼ばれる器具です。これに生豆を入れて火にかけることで豆の色や音、香りなどを見ながら好みの焙煎度に仕上げます。手網焙煎は、コーヒー豆の風味や香りを自分で決めることができるので、自分好みのコーヒーを楽しむことができますが、十分な活用には知識や経験が必要な器具です。

市販の鍋の取手は、鍋の本体にネジ止めもしくは溶接して取り付けられています。一方で本試作品では、取り付けの溶接やネジ止めなどをせず、鍋状の鉄の縁を細長く切り出して、両端から編み込むように特殊な金属加工で制作した持ち手の部分が特徴的です。

内側の網は、FERRET COFFEE の発案です。手網焙煎は火力や時間の調整が難しく、焼きムラや生焼けを防止するための、熱を分散させる効果と、コーヒー豆を適度に動かす効果をもたせています。

川合 光 (atelier plateaux)

人の生活空間に関する様々なものを企画・デザイン・製作しています。使われる方が長く愛着を持って使えることを願い、使い手と作り手の相互理解に基づいて、量産品とは異なる良質な素材と技術でモノづくりをしています。

有限会社 松和製作所

金型を作るために使うグラファイト電極の3次元加工や、金型に付随する部品を作っている長泉町の会社です。一般の方々にも喜んでもらえるように、思い出の瞬間を写真や文字で刻んだオリジナル商品を作って販売しています。

Kaz KAWAHIRA (FERRET COFFEE)

珈琲焙煎士で国内外の大会で審査員を務めている。

CQI 認定Qアラビカグレーダー

IIACカフェ学マスタープロフェッショナル

IIACエスプレッソイタリアーノトレーナー



試作品創出に果たした役割として

アーティスト：川合光氏（アトリエプラトー主宰※1）

ロットを意識した複数製造で作られられる機械制作では作りえない鉄作品としての意匠性を残しつつ、実用性とのバランスをデザイナー後藤純一氏と調整してもらいました。実用性を担保するのにデザイナー後藤氏に関わって頂いた理由は、建築士として店舗設計などを手掛けており、使う側のニーズを個人利用だけでなくお店の方の利用も把握していることが、適任だと判断したからです。短期間での制作でしたが、展示用の試作品が完成しました。焙煎機としたのは趣味としての珈琲も人気がありキャンプグッズとしても需要があるから選定しました。

プロダクトデザインでは、使いやすさの追求に偏るデザインから、作品の要素を残すための「アート思考」を追加してもらう役割を果たしていただきました。コーヒー焙煎機の方のアドバイスから、コーヒー焙煎機は利用者側の視点で作られたものは、ありきたりのデザインが多いことを知りました。もしくはその逆も多く、デザイン重視で作られたものは利用しにくいとのことでした。今回の試作品は重さが難点ですが、デザインがついている部分は機能的には影響しないところにとどめます。

※1アトリエプラトーアイアンワーク・スタンドグラスを、ご注文いただいてからデザインを起こし、制作しております。

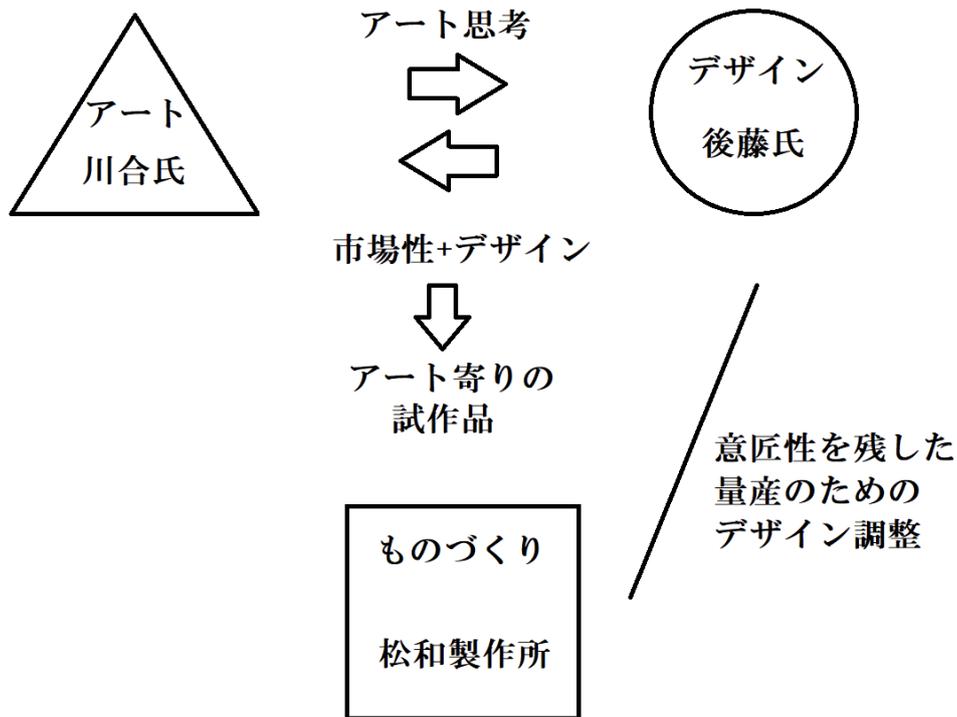
地域産業：有限会社松和製作所

地元の中小企業からの依頼が多く、鉄鋼の削りだし技術を得意とする同社。今回試作を作り出すにあたり、業界の仕組みや作りたいものに対してのアドバイスを頂きました。1つの工場では作れるものは限られていますが、同業者同士のコミュニティがあり、連携により顧客の需要にこたえられる仕組みがあると聞き、ひとまず試作品作りに徹することにしました。今回の試作品製作では、発注にまでは至りませんでした。量産できる方向性を定めたうえで再度ミーティングを繰り返していこうと思います。

デザイン：建築士後藤純一氏（アオイ建築所属）

コーヒー器具に関しては市場的にたくさんの商品ができて競合過多の分野ということもあり、今回はよりアーティスト発想を取り入れる方向性で行いました。手作業の感覚の残る、ひねる・延ばすといった加工を目立つ部分に取り入れたことで、試作品の段階では、地域産業の話聞きながら出来ることや苦手なことの抽出といったところまでに至りました。アーティストとの調整では、珈琲焙煎機の既存商品を意識してインパクトのある試作品にするために、打ち合わせを繰り返し、多量生産では作りにくい手法と手技を活かしたアーティスト選定に至りました。川合氏との試作では、たたく・引っ張る・ねじるなど、機械では作りにくい形状となりデザイン性の高い試作品となりました。

既存の焙煎機は販路が卸業者から量販店を経由して売られるため、大量ロットの生産品がほとんどです。手作りのオーダー品は調べてもほとんど出てこないのが現状です。鍛鉄は鉄をたたいて形成することから、全く同じものは作れないため、そこで、手作り一点もので差別化を図ろうと考えました。今後の展開としては意匠性を残しつつ、軽量化や量産化できる部分を探り試作品から商品への展開を模索していきます。



結果として出来上がったもの

コーヒー焙煎機を作ろうと思い、焙煎士の方にアドバイスをもらう中で焙煎機の市場調査もしました。色々な業種の参画により、アウトドアでも使える個人用コーヒー焙煎機の市場は競合過多であることが分かりました。今回の作成に当たり心がけたのは『他と違うこと』でした。

カウンター制作と異なり調整役のデザインを担う後藤氏に対して、アート作品特有の一点ものといった感覚を試作品に入れるため、アーティスト主導で試作品製作をスタートさせました。そして、アーティストの選定をし試作品づくりがスタート。今回短期間の取組だったので展示用の試作品を作ることで、一旦のゴールとしました。自動車の展示会で言うコンセプトカーのような位置づけと捉えています。出来上がった試作品を今後デザイナーとものづくり企業とで調整し、製品化に向かっていくと思います。

試作 | #003

カメラを用いたインテリア (継ぎの時代)

アーティスト：滝戸ドリタ

地域産業：ふくろうの里

デザイン (キュレーター)：澤隆志

自然の風景に溶け込むような監視カメラというコンセプトで、ステッピングモーターで動くウェブカメラと、三島市で採取した溶岩石を組み合わせたインスタレーションです。





展示資料

継ぎの時代

2023/02/26～2023/03/4

昨年度から始まった、作家と地域によるアイデアの寄り合い「継ぎの時代」。今回は滝戸ドリタさんと共に”作品と商品のあいだ”を探ってみました。しばしば口にしてるのが、「作家が地域おこしをするのではなく、作家が地域に驚き、起こされている」という点。今回も長泉町、三島市の水、岩、苔に驚いたドリタさんのテンションと、この coworking space にも関わるキーパーソンにリサーチ初日から出会えたミラクルにより、zoomではなかなか定まらなかった方針が一気に進んだのでした。場の力！



澤隆志 (キュレーター)

coworking space に関わる意義

地方の空き家問題を考える時空き家を地域資源と捉えプレイヤーを発掘、育成しシェアで利活用する coworking space 運営に辿り着いた。長泉町の coworking space 運営を通じてアーティスト支援とまちづくりが絡めばもっと面白くなるはずという発想を実験中。



山田知弘 (下土狩駅前 coworking space 運営責任者)



滝戸ドリタ

アーティスト / ディレクター / デザイナー

小学校3年から多感な高校生活までを静岡県清水市(現在は静岡市)で過ごす。

異なる機能や感覚を組み合わせることによって、いままでの感覚がずれるような新たな体験を作り上げる。また作品の発想は突飛であっても、テクノロジーと洗練されたデザインを並走させながら、多くの人が入っていける思考の入口を作る。

主な受賞に、虫の足音を音と振動で体感させる「Bug's Beat」にて「PRIX ARS ELECTRONICA & STARTS Prize 2017」DIGITAL MUSICS & SOUND ART 部門 Honorary Mentions(2017年)受賞、形を持たない流動系の楽器「スライムシンセサイザー」では「第18回文化庁メディア芸術祭」エンターテインメント部門新人賞(2014年)受賞。2016年度、2019年度メディア芸術クリエイター育成支援事業2度に渡り採択。2019年 生物学とソフトロボティクスを学ぶ「SOFT ROBOTICS Collective 生命と機械の学校」を主宰。2022年 CULTURE GATE to JAPAN「+A+」のプロジェクトによる江戸前鯉の幼生レプトセファルスのロボットと人が泳ぐ「冬の虹蜺 The Sigh of Eels」を東京国際クルーズターミナル3階大型LEDビジョンにて上映。オランダ・

植物を救い、自然が溶け込む三島の街

新幹線で東京の自宅から1時間ほどで三島には到着。あっという間で東京からも多くの移住者がいるというもうなづける。最初に目に入ったのは街中を涼しげに流れる「源兵衛川」である。カルガモが悠々と泳ぐその小川は、街中に張り巡らされているにもかかわらず透き通った水を讃えている。そして、一度絶滅の危機に瀕した三島梅花藻が美しい緑を輝かせて、その多さに驚いた。東京湾でうなぎの絶滅リサーチした作品を作った時、水質を改善することの難しさを痛感した。東京生活排水、工業排水、密接に関わるしがらみの中で水質改善しようと多くの人たちが研究している。三島はすでに改善されており、絶滅しかけた植物を救い、しかも依然と生活の中に溶け込んでるのは非常に眩しかった。



駅前留学ではなく駅前自然

駅から降り立つとすぐに大きな庭園「楽寿園」がある。明治23年、小松宮彰仁親王の別邸として建てられたものだが、現在は市民に公開されていて、小さな動物園もあり、ゆっくり歩けば四半刻ほどはゆっくりできるようなかなり十分に広い庭園である。またいわゆる整然と手入れをされた庭園というわけではなく、そこにはゴツゴツとした三島溶岩がある。小さな洞窟などは庭園内にもあり、そのままの自然と取り込んでいるのがわかる。

溶岩を突き破って太陽へと伸びる植物も見当たれば、着生植物のひとつ、苔も美しく緑を讃えている。こんなふうに三島の人々は自然と溶け合うように生活を築いてきたのではないかな。

鮎壺の滝の唐突さとマンション

今回中心の場所となる「下土狩駅前コワーキングスペース」からほど近い場所に鮎壺の滝がある。1万4千年ぐらゐ前に起きた富士山の噴火の際に流れ着いた三島溶岩流が堂々と鎮座し滝と形成している。ここは伊豆半島ユネスコ世界ジオパーク（注1）に認定されているそうだ。しかも隣にはマンションがあり、近隣も住宅が囲んでいる。壮大な滝が唐突に現れ、街並みに溶け込んでいるのに驚いた。

その周りにはまた溶岩から突き出した植物たちが力強く伸びている。東京からも近く、それなりに都会であるのに、そこはかたない生命力を感じる場所である。

（注1）「ジオパークとは」

地質・地形から地球の過去を知り、未来を考えて、活動する場所です。ジオパークとは、地球科学的意義のあるサイトや景観が保護、教育、持続可能な開発のすべてを含んだ総合的な考え方によって管理された、1つにまとまったエリアです。

日本ジオパークネットワークより引用抜粋

出典：<https://geopark.jp/geopark/about/>



制作物「岩を見て、街を知る（仮）」

Someone to Watch Over Something

観測の視点

保護の視点

自然と生活

溶岩と植物を見守るロボット

1. 観測の視点

日本は災害大国である。多様な災害が起こる国であり、その研究や対応も非常に優れている。静岡に住んでいた時よく言われたのは「富士山の噴火」と「東海大震災」である。子どもの頃からの恐怖である。このことに対して、静岡大学には「静岡大学防災総合センター」という機関があり、専門家が研究をして生活を守る防災に普段から取り組んでいる。

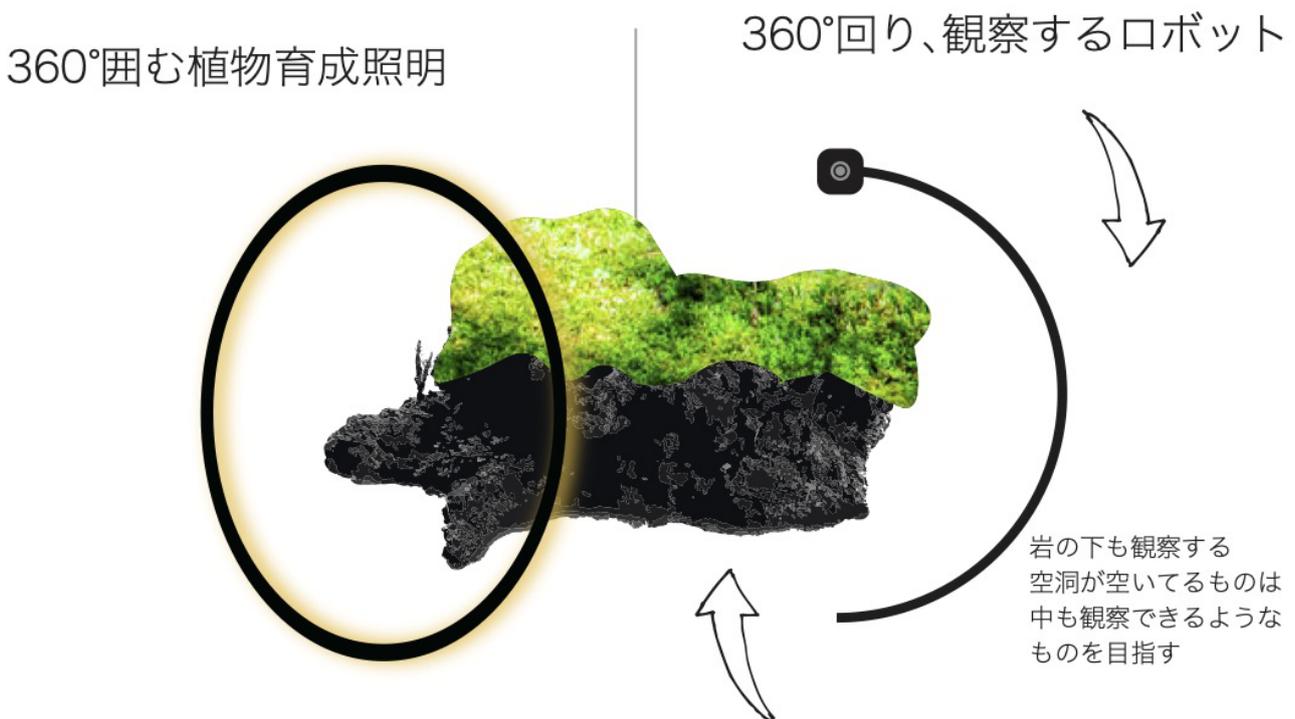
静岡大学防災総合センター <https://www.cnh.shizuoka.ac.jp>

また研究だけでなく、事前に予兆がわかるような観測技術も高い。このような心構えがおそらく学術的な場所だけでなく地域全体に広がっているのが静岡だと感じられた。

2. 自然と人間の共存とは

前述したように東京も自然を守ろうと研究や保護は盛んに行われているが現状特に東京湾は相変わらず濁っており、先の東京オリンピックでも臭気が話題になった。私たちの生活と自然がお互いうまくいくのは難しいのだろうか。自然を見て守ることの難しさを感じずにはいられなかった。しかし、三島はうまくいっているように見える。しかも街中に自然が鎮座している。この状態をうまく表現し、また多くの人に取り入れられる形はできないだろうか。

1. 観測の視点 = あらゆるところを観測している



2. 自然と人間の相利共生 = 自然と生活の同じ場所に



ガラス容器の苔テラリウムや吊るすハンギンググリーンはよく見かけるではなく

三島の街で実際みたような形で置くことはできないか。

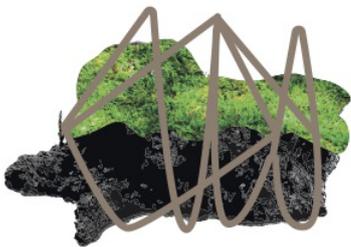
鉄柱が突き抜ける
無骨な溶岩



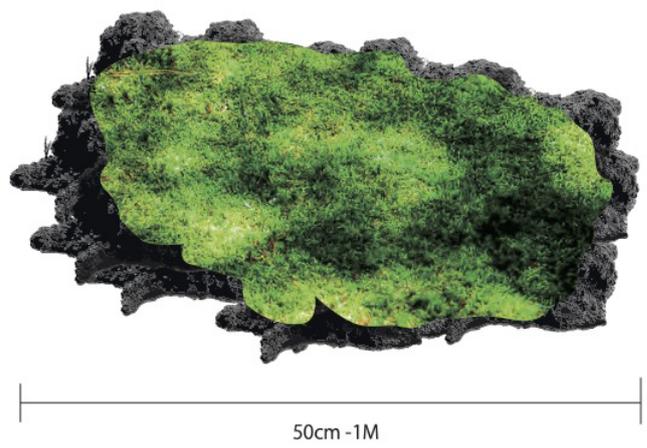
ワイヤーや鎖で
宙に浮いているような溶岩
(室内)



マクラメに包まれる
溶岩



溶岩庭園



ご協力していただいた方々

秋山正美さん 建築からイベント施工までマルチにこなす秋山正美さんに下土狩駅前コワーキングスペースにきていただき、溶岩に苔を着生させる作品をご相談したところ、溶岩をゆずっていただけることに。ご自宅にお伺いさせていただき、フクロウやタイハクオウム、ヨウムなどの珍しい鳥たちと遊ばせていただきました。

植物、苔

Bot (柏木植物園 ガーデンセンター)

〒411-0933 静岡県駿東郡長泉町納米里209-1

株式会社モスファーム

〒418-0066 静岡県 富士宮市 大宮町 13-4-402

(TEL) 0544-58-8527 (FAX) 0544-27-3198

E-mail:info@mossfarm.jp

<https://www.mossfarm.jp/>

苔テラリウム専門店 アイモス

〒439-0019

静岡県菊川市半済1763

(TEL) 0537-36-3334

E-mail:info@aimoss.net

<https://aimoss.net>

結果として出来上がったもの

地域の散策からインスピレーションを得たものを具現化し空間に落とし込んだ空間演出でした。試作 | #001、#002 との違いは空間まるごと試作品としてとらえている点にあります。

事業内容 2. プロダクトデザイン試作品展示会

制作したプロダクトデザインを展示し、試作品発表展示会として一般公開しました。

チラシ、ウェブサイト、SNS などのメディアで広報し、多数の来場者の方に実物にふれていただきました。

画像右上：展覧会チラシ

画像右下：企画ウェブサイト

<https://www.antiquedoor.net/artandindustry>

開催概要

名称： 共創 試作品発表展示会 日常+α

会期： 2023年2月27日(月)～3月4日(土)
10:00～16:00

場所： 下土狩駅前コワーキングスペース
(駿東郡長泉町下土狩 1323-2 2F)

観覧料： 無料

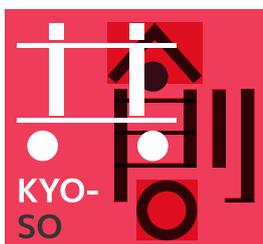
来場者実数： 84名

問合せ： 070-5039-6918 (担当: 山田)
iegime@yahoo.co.jp

主催： 有限会社日の出企画
共同主催： 下土狩駅前コワーキングスペース

アーツカウンシルしずおか
「2022年度地域産業とクリエイティブ人材マッチングモデル事業」

企画ロゴマーク



トークイベント概要

開催日時： 3月4日(土) 13:00～
出演： 滝戸ドリタ、澤隆志

(写真：展示会・トークイベントのようす)



展示会開催までのスケジュール

【物件選定】=事前段階

6/中 静岡県東部空き家物件管理者とミーティング
6/28 三島市芝本町空き家に仮決定

7/18 物件白紙
8/19 信金ミーティング 趣旨説明
8/31 信金ミーティング
9/21 周辺ステイクホルダーとアイデアソン No.1
9/26 周辺ステイクホルダーとアイデアソン No.2
10/3 地銀ミーティング
10/14 信金ミーティング
…なかなか地域産業への理解進まず候補見つからず

【物件確定】120日開始

11/4 長泉町コワーキングに確定

11/18 都築ミーティング
11/28 信金ミーティング
12/2 都築ミーティング
12/8 第一建設ミーティング
12/19 地銀ミーティング
12/20 東京チームミーティング
12/22 信金ミーティング
12/26 地銀ミーティング
12/28 信金ミーティング
1/16 地銀ミーティング
1/18 松和製作所ミーティング
1/23 地銀ミーティング
1/31 地銀紹介の地域産業訪問
2/22 長泉町近隣への移住者たちとアイデアソン No.3
2/9 キタ工業ミーティング
2/13 信金紹介地域産業訪問



展示パネル



試作品発表展示会
「日常+α」

CONSEPT

アーティストやデザイナーと、県東部のものづくり企業とが出会い、「採算」や「ロット」など効率を求める思考からあえて離れ、120日間をかけてそれぞれが持つアイデアと技を持ち寄り「これまでにない試作品」を制作しました。日常に加えると、こころが豊かになるモノ「日常+α」の数々をぜひご覧ください。



試作 | #001

ARTIST

小端 吾郎 Goro Kobashi

ものづくり大学卒業。(株)小西美術工藝社にて日光東照宮、皇居乾門、根津神社など文化財の漆塗装の修復に携わる。2012年駿河漆器安藤氏にて小物の漆塗りを研修。2013年から熱海楠細工にて指物と漆塗りを学ぶ。

cotan-urushi.com

地域産業

キタ工業株式会社

キタ工業株式会社長泉は、静岡県駿東郡長泉町にある金属製品の製造・販売を行う会社です。板金加工や溶接などの各種金属加工を得意とし、コンピュータを使ったハイテク加工も行っています。



<http://www2s.biglobe.ne.jp/>

デザイン



LivingD 第一建設株式会社

1948年に創業し、現在は静岡県内に4つの支店と1つのスタジオを持っています。LivingDというブランドで、お客様のライフスタイルに合わせた住まいづくりを提案しています。

daiichikensetsu.co.jp



試作 | #002

ARTIST

川合 光 (atelier plateaux)

人の生活空間に関する様々なものを企画・デザイン・製作しています。使われる方が長く愛着を持って使えることを願い、使い手と作り手の相互理解に基づいて、量産品とは異なる良質な素材と技術でモノづくりをしています。

atelier-plateaux.com

地域産業

有限会社 松和製作所

金型を作るために使うグラファイト電極の3次元加工や、金型に付随する部品を作っている長泉町の会社です。一般の方々にも喜んでもらえるように、思い出の瞬間を写真や文字で刻んだオリジナル商品を作って販売しています。



mkoubou.net

地域産業



Kaz KAWAHIRA (FERRET COFFEE)

珈琲焙煎士で国内外の大会で審査員を務めている。

C Q I 認定Qアラビカグレーダー

I I A C カフェ学マスタープロフェッショナル

I I A C エスプレッソイタリアーノトレーナー

ferret-coffee.jimdosite.com

デザイン

HandsWorks (株式会社アオイ建築)

住まい手の好みとライフスタイルに合わせた家づくりをする会社で、自社で家具やインテリアも造ることができる。家づくりに関わるものが趣味のスタッフが、自由な発想とセンスで楽しい家づくりを提供する。

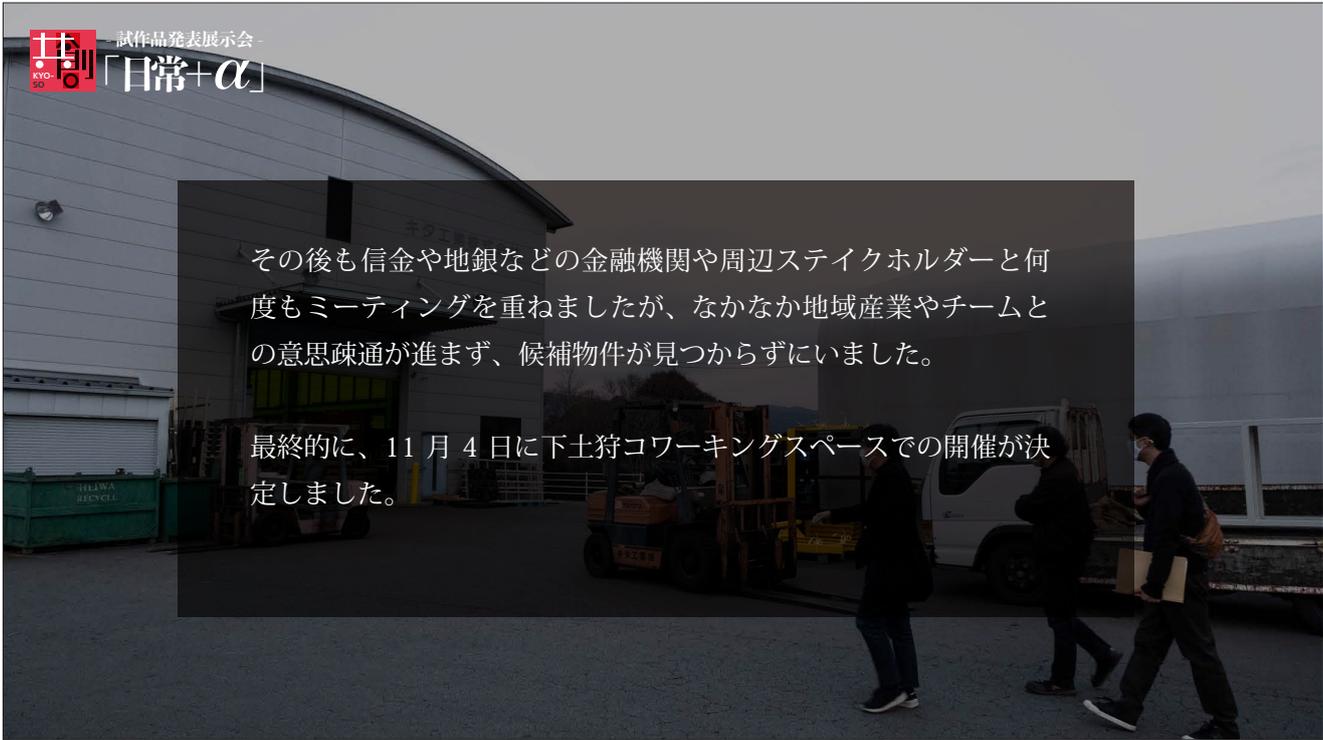
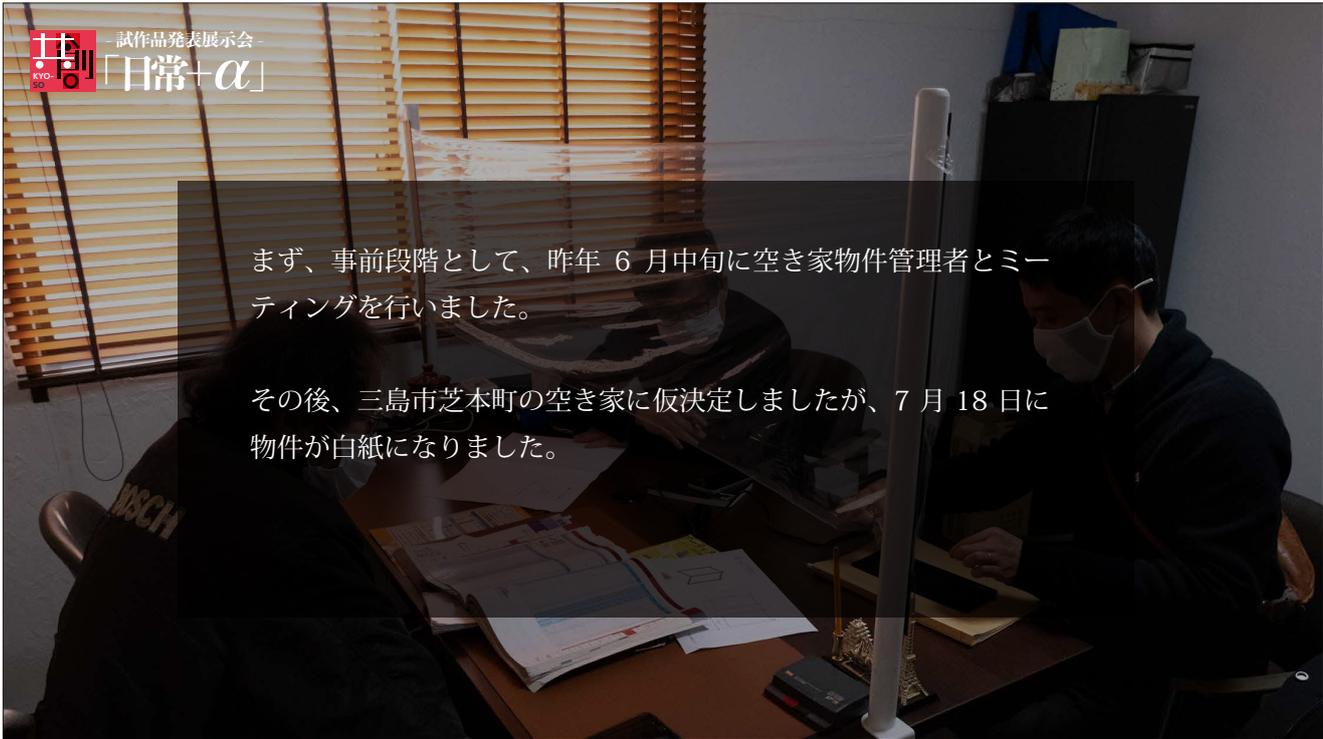


mkoubou.net

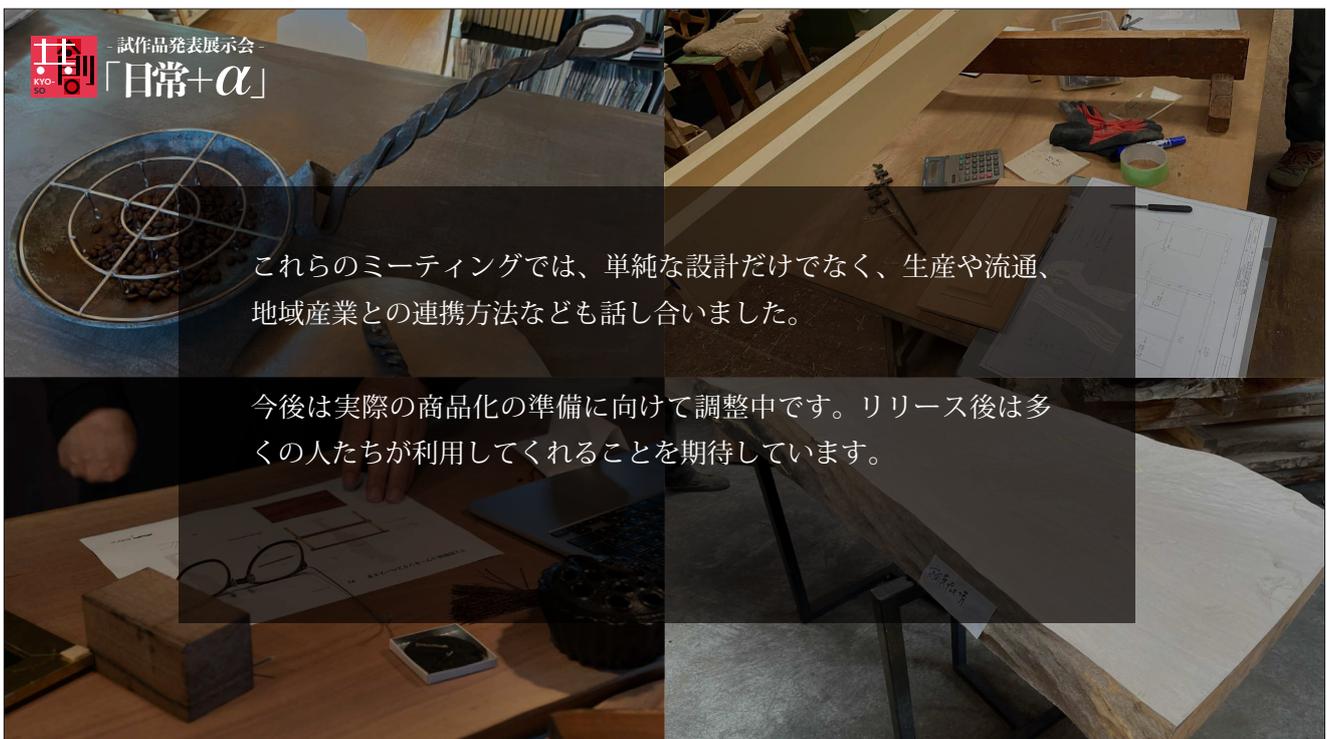
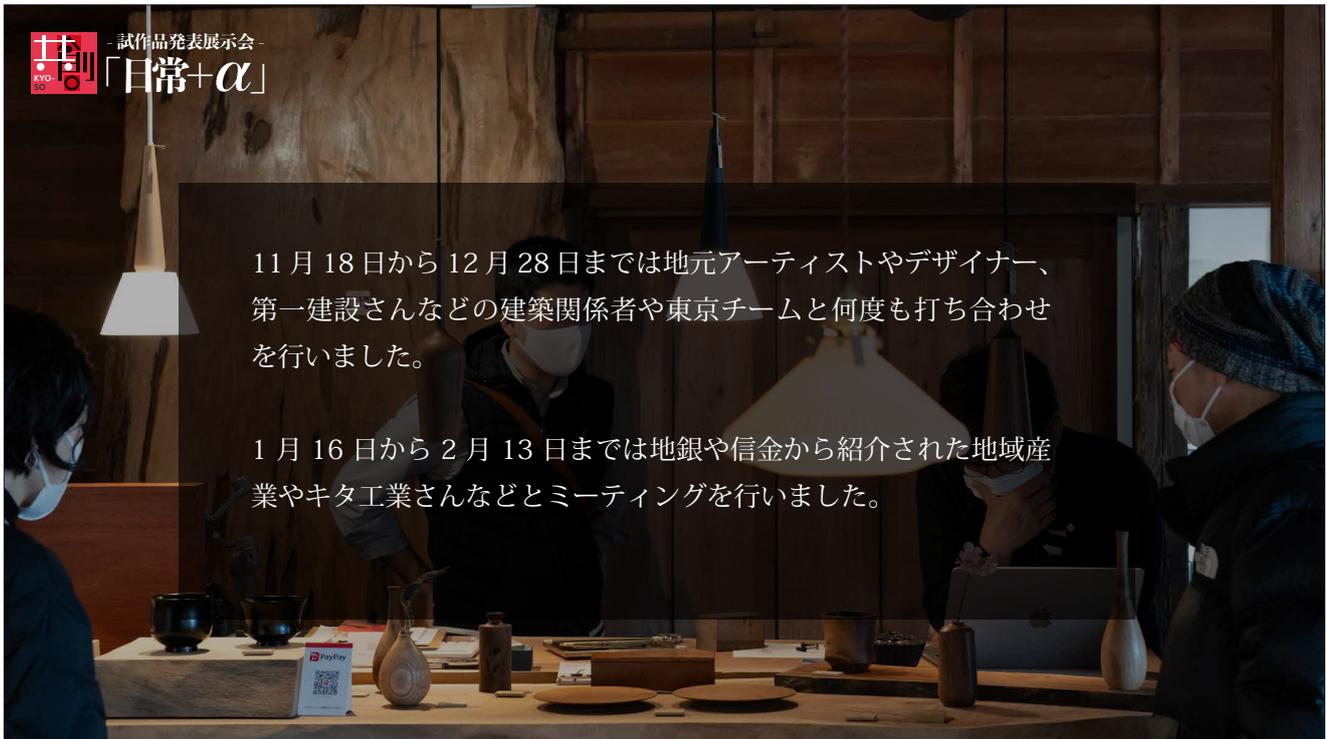
当事業は、地域産業と多様な働き方を支援するとともに、新規起業家やまちづくりに関心のある人たちの交流拠点となることを目指しています。

アーティスト × 地域産業プロジェクト「共創」の経緯を時系列でお伝えします。

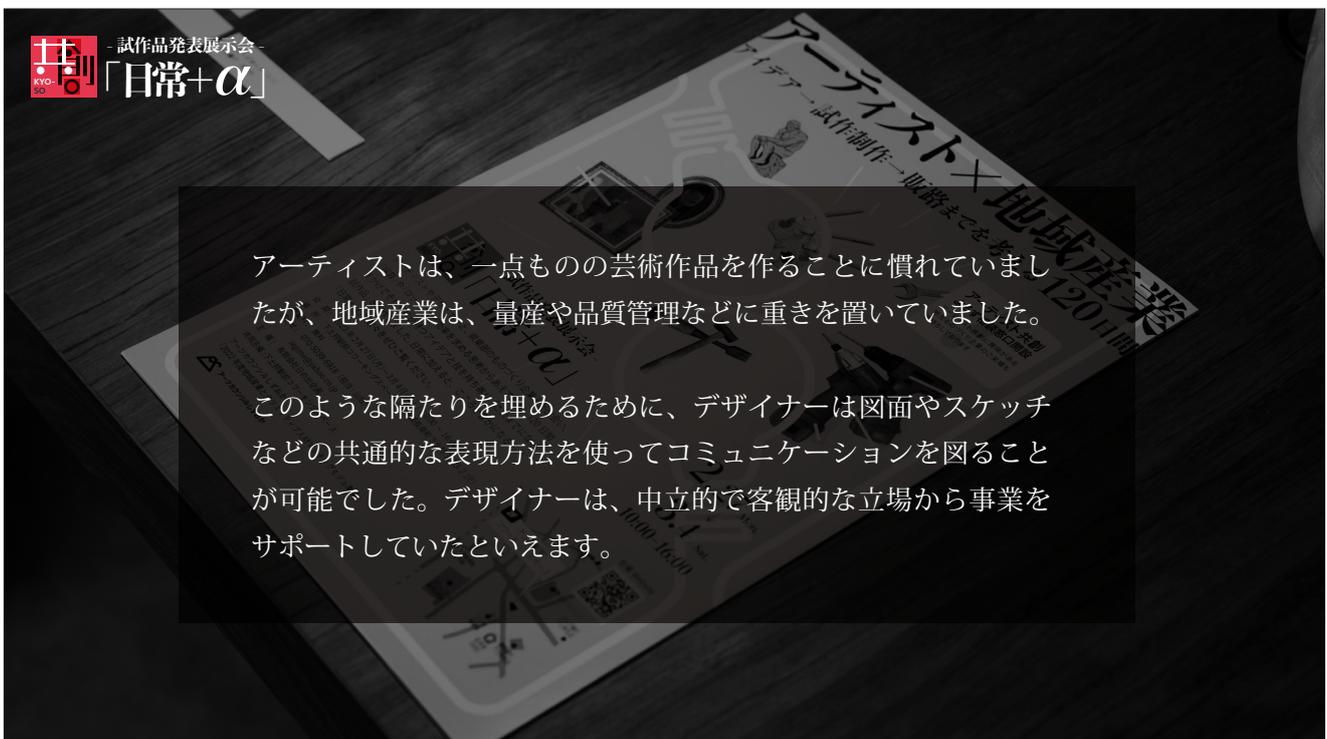
展示パネル



展示パネル



展示パネル



試作品創出に果たした役割として

全体のキュレーション：インテリアアート凸主宰 伏見さき子氏

今回の影のキーマンとっていい役割を果たしていただきました。伏見氏は普段ギャラリーを運営し、静岡東部に幅広いアーティストのネットワークを持っています。静岡側のアーティストとデザイナーに関しては、ほぼすべての方につながりを持っています。初めての取組に対して信頼関係を短期間で構築するのは難しいことが多く、伏見さんの存在が果たす役割が重要だと考えます。知り合い同士のつながり的な感覚は、この方がいたからなり立ったといっても過言ではないです。個別で出来上がる試作品3点に対して、イメージの共有をしたり協力事業者を紹介したりと裏方として調整をしていただきました。

展示会全体全体のしつらえ及び発信媒体の作成：都築透氏

今回は情報発信と展示会当日のしつらえの総合プロデュースをしていただきました。試作品の展示箇所や発信媒体であるホームページ完成に不可欠な写真などを撮影するために、密着取材形式で同行していただきました。自身もメディアアーティストであり、商業デザインもこなします。アーティストの視点とデザイナーの視点を情報発信に生かすことができました。

展示会を終えての感想

アーティストを代表して 川合光氏の感想

私達は創業以来、熟練した技術と設備を生かし、建築や家具、鉄の加工に留まらず、様々な製品の製作を行ってきました。モノづくりへのこだわり、今回のコーヒー焙煎機でなければならない意味を探っていく中で、私たちが求めてきたものは、「鉄の可能性、であると思っています。今回のコーヒー焙煎機が「愛着をもって長く使ってもらえるモノ」、「買った人の心が豊かになるモノ」、「作り手の楽しさや優しさが伝わるモノ」となる様、鉄の加工の技術を注ぎ製作致しました。

デザイナーを代表して 第一建設株式会社 後藤昇氏

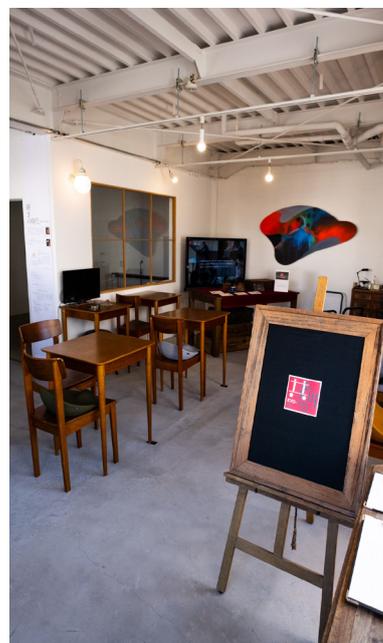
今回のハイカウンターテーブルは、高級感と重量感のある異素材（無垢一枚板テーブルと無垢真鍮脚）を組み合わせ、その素材そのものが持つ表情を活かしながら運搬のしやすい組み立て＝ノックダウン方式とするのが課題でした。組立しやすい特徴的なデザインとなった脚は、何度も金属加工工場と素材の特徴や折り曲げ技術のアドバイスをいただきながら形となり、厚みのある一枚板のテーブルは、日本の樺と楓を選び木工職人とバランスをみながら木取りを行いました。

地域産業を代表して キタ工業株式会社 北出秀司氏

普段は強度などの問題からチャレンジを控えてしまうような形状で加工することができ、新たな素材の新たな可能性に気づけました。着眼点が斬新でとてもいい経験になりました。今回は難しいチャレンジで短納期だった点が難しく、もう少しチャレンジの時間があればよかったと思いました。期待する点は、新しい発想を共有し新たな商品の開発の種となることです。

三作品を通じて今後の展望

静岡県側（試作 | #001、#002）がモノへの落とし込みをされたのに対し、東京側（試作 | #003）の試作品は概念や発想を表現した作品に仕上がりました。地域産業は販路というよりも製作途中で関わる点で違いが出たのも面白い発見でした。アート×地域産業は空き家対策との連動として、移住してきたアーティストの仕事をすることを想定すると、事業継承も一つの手段だと考えます。例えば、親族ではない第三者への事業承継を行った場合、事業を引き継いだ新経営者が旧経営者の社歴や経営方針をリスペクトしつつ、新経営者自身が持つ経験を活かすという状態と、アーティストの発想をものづくりに活かすという状態が類似しており、アーティストが継業し仕事も得つつ静岡県に移住する、というモデルを提唱できると考えます。アート×地域産業は空き家対策との連動で、アーティストの移住促進やアーティストの継業にもつながっていくネタになりうると確信しました。事実、この期間中に工房利用の場所を求めたアーティストの移住が、空き家対策を通じて実現しています。作品作りの場所を求めての行動のようですが、地域の連携にアート×地域産業がありプロジェクトの創出が取り組みを通じて生まれれば、静岡県で行われている共創という事業が移住候補地の検討理由になりえると考えます。そんな将来像を目標に、共創の動きを発展させていこうと思います。



自己評価

事業の役割

この事業の成功には、デザイナーの役割が大きかったように感じられます。なぜならデザイナーは、アーティストと地域産業という異なる二つの世界をつなぐ言語を持っていたからです。アーティストは一点ものの芸術作品を作ることに慣れていましたが、地域産業は量産や品質管理などに重きを置いていました。このような隔たりを埋めるために、デザイナーは図面やスケッチなどの共通の表現方法を使ってコミュニケーションを図ることを可能にしました。デザイナーは、中立的で客観的な立場から事業をサポートしていたと考えます。

また、本事業において地域産業とのマッチングの実現に三島信用金庫の力が欠かせないものでした。三島信用金庫は地域経済や文化への貢献度が高く、信頼性も高い金融機関です。本事業に対して積極的に協力してくださり、取引先でアーティストやデザイナーとの新規事業企画に興味を示した会社に対してミーティングの機会を複数回作って頂くなどの橋渡し役も果たしてくださいました。

今後の事業を継続的に実施するにあたり、アーティストと地域産業の両者との連携をより強固にしていく体制を整えていきたいと考えています。

事業の成果

本事業では、静岡県東部地域のアートと地域産業とのコラボレーションを目指して、プロダクトデザインの制作から、展示までを行いました。これらの試作品は、実現に向けて協議や技術交換を積み重ねることで、地域のアーティストと産業の事業者との相互理解と連携を深めるきっかけになりましたし、展示会の来場者にも意見交換していただき、アーティストと事業者の新しい魅力や可能性を感じてもらえたと思います。実際に来場者に向けて実施したアンケートでは、「地域事業者との連携・紹介」を望む声が多くみられました。これは今後の事業の発展に向けて大きな期待がもてることだと感じました。

また、来場者の方々は、支援者やコーディネーターなど、通常のアートの展覧会ではみられないような様々な立場で本事業に関わりたいという想像力や意欲を持ってくださったようです。一方でアンケートでは製品化を望む声もみられましたが、それは簡単なことではありません。販売を前提とした完成度とするには解決すべき課題が多くあります。しかし、私たちはこの試作品を終わりではなく始まりだと考えています。今後も実現に向けた取り組みを継続的に行っていきたいと思っています。

本事業はアーティストや製造業種以外の職業の方からも関心や参加意欲が高かったことから、地域経済や視覚芸術文化への波及効果は今後も期待できると考えています。私たちは、この事業で得られた成果、事業の役割を継続し、地域の発展に貢献するため、今後も取り組んでまいります。

自己評価

所見

今回の事業を通じての一番の収穫は地域産業とアーティスト双方とつながれたことにあります。試作品を通じて対話の機会を頂き各分野の課題やその会社の課題展望などを共有し、アーティストとのかかわりも直接的な形とキュレーターやデザイン分野の方々を通じての間接的な形のコミュニケーションを図ったことも大きな経験になりました。

新たな取り組みに必要なことは対人の関係づくりと対ビジネスの関係づくりを良好にすることだと思いました。特に対ビジネスのコミュニケーションには共通言語として『図面』の存在が大変重宝されていました。今回の取組を言葉で表すとロットや採算という考えを排除して、デザイン手法による新商品開発にアーティストによる発想を付け加えると依頼主の想像の少し上をいく試作品となります。試作品にはどこかしの不具合はつきものですが、その解決をお互い考えていくことを「共創」とし継続していったときに新分野の本当の意味でのマッチングが生まれる可能性があると思ひ致りました。その先にはアーティストが地域産業である町工場などを継業したり、マッチングから生まれたプロジェクトを通じて地域とつながり、移住を決断するという未来も秘めているかもしれないと思います。

参加者からの声

澤隆志（試作 | #3 キュレーター）

ドリタ、ドリル、ドリーム

昨年度末のバタバタの中、「継ぎの時代」というプロジェクトがスタートした。アーティスト meets 空き家。最近では珍しくないアプローチかもしれない。が、このトライが特徴的なのは時間感覚だと思う。芸術祭のように短期で賑わい etc を期待されるようなものでもなく、移住促進的に作家の人生に関わる規模でもなく、イメージしたのは地域や物件との中期的な関係である。なので作品の展示場所として引き合わせるのでもなく住居やアトリエとして考えるのでもなく、物件関係者やその人の関わるナイスな生活者とワイワイ雑談して「物件の遺言状」をやんわり導き出すアイデアマラソン、古風に言えば寄り合いのような体験をしてみた。そういった、ゴールの見えにくいことに参加してくれる作家はまあ限られてくるわけで、飯沢未央さん、三原聡一郎さんのしなやかさとしぶとさには頭が下がる。21年度「文化芸術による地域経済活性化モデル形成のためのパイロット事業」の中で継ぎの時代と称して三島市の空き家2拠点の使いこなしをアーティスト視点を取り入れたアイデアソンを実施した。その際三島市大宮町の物件を担当したのが飯沢未央さん、三島市芝本町の物件を担当したのが三原聡一郎さんだ。

そして22年度末は、できたてのコワーキングスペースに地域産業とクリエイティブ人材とをマッチングさせる事業「共創」に東京から来ましたという体で「継ぎの時代」を join させていただいた。なので今年度はちょっと"ブ

ッ"を意識。招聘作家は滝戸ドリタさん。最近ではロボット工学を動物や植物に寄り添わせる作品を発表されている。2022年の9月に三島市、長泉町をご案内し、鮎壺の滝に代表されるワイルドな水と岩の情景に彼女も僕も心底驚いた！地球の営みの迫力のほんの薄皮を見せつけられたわけだけど、コワーキングスペースという実に今日的な、人間中心的な空間と時間を有する場所に、ヒューマンスケールから逸脱したブツをゴロっと同居させてみたい。という欲望にドリタさんが移行したんだと思う。溶岩と水と苔と視線で長泉町から地球まで一気通貫できる種がみつきそう！な、瞬間。

アーティストは大概、出会いや時期の奇跡を“持っている”存在で、少ないリサーチ日の最後にコワーキングスペース、溶岩の所持&加工、イベントごとの楽しさ、すべてに理解を有する秋山正美さんと出会えたおかげで、前年度のアイデアソンの立ち位置から今年度は展示をしてその場で対話をするという構えを見いだせた。

3月4日の一日だけ展示できた作品は、先の秋山さんに加工までしていただき、静岡の溶岩、そこに着生した苔などの植物、それを周回して観察するwebcamによるものとなった。地球の縮小模型のような鮎壺の滝の大岩から生えた大木。そのまた縮小模型ような溶岩に着生した緑のいきものの展示。と、周回する人工衛星みたいなロボットカメラ。毎日のように湧き水や温泉を提供し、突然大地震を起こすのが東海地方 / 日本 / 地球だと教わったアーティストが、地元静岡にアンサーするプロダクトとして相應しいものになったのかもしれない。今年に関東大震災100年。日々、溶岩を見て苔を育てつつ、地球の生に感謝と恐れを感じる機会となれば。

アンケート結果

アンケート実施期間：3月5日～3月28日

アンケート収集方法：Google フォーム

対象：来場者

回答数：16

アンケート実施先 URL：

<https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSe1zzLxZIWY7m3Lc7s7qlbe-IH2s9MVW1ATJ2-aSOBiPD-6Yw/closedform>

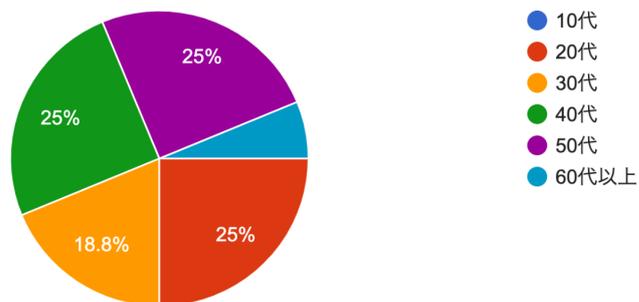
質問内容：

- 1 年齢
- 2 性別
- 3 職業
- 4 お住まい（市区町村）
- 5 今回のイベントをどこで知りましたか
- 6 試作品を実際に見て、良いと感じた試作品を教えてください
- 7 試作品を実際に見て、使い方のイメージやアイデアが浮かびましたか
- 8 浮かんだイメージやアイデアの内容、もしくは浮かばなかった理由を教えてください
- 9 今後、共創プロジェクトについて、どのような立場に関わりたいと感じましたか

アンケート結果

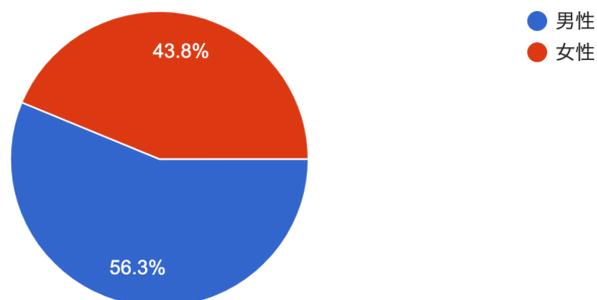
年齢

16件の回答



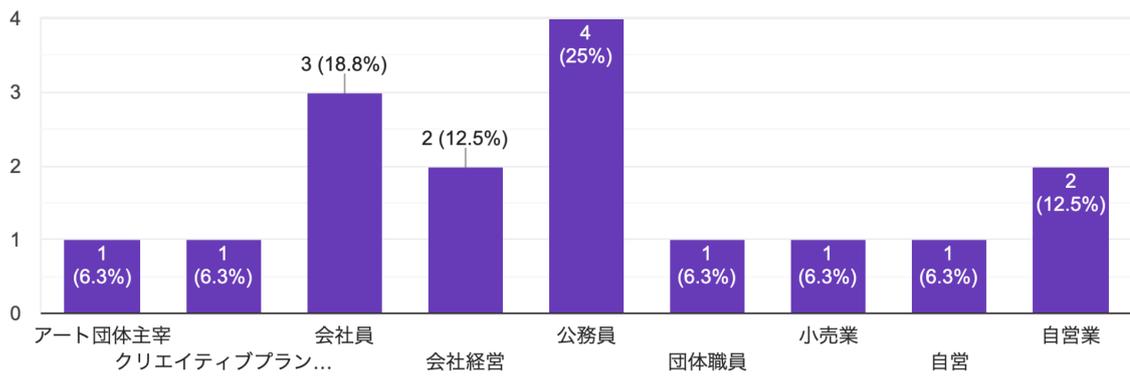
性別

16件の回答



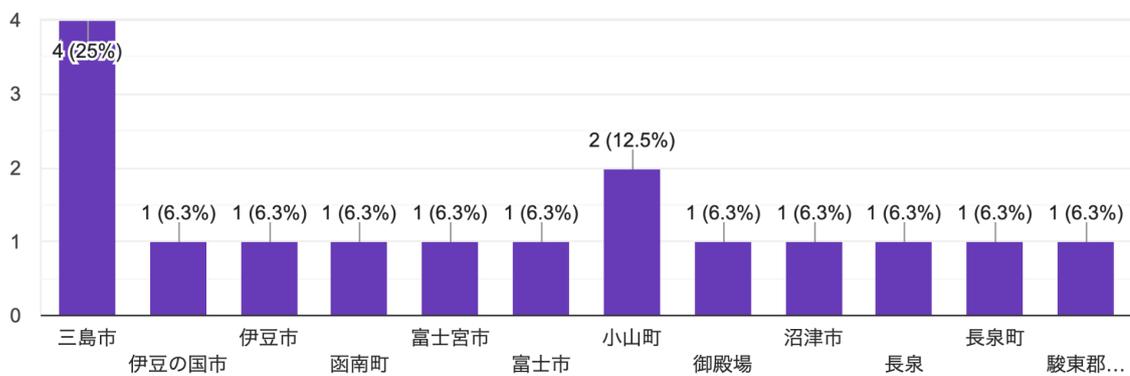
職業

16件の回答



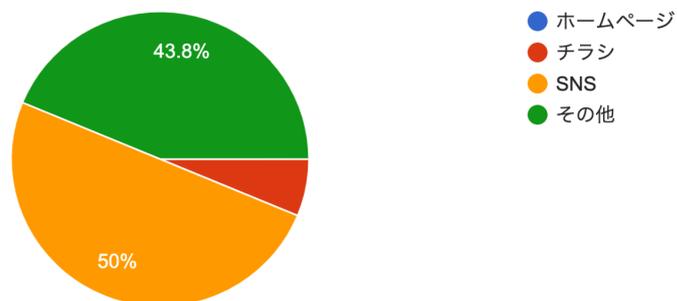
お住まい（市区町村）

16件の回答



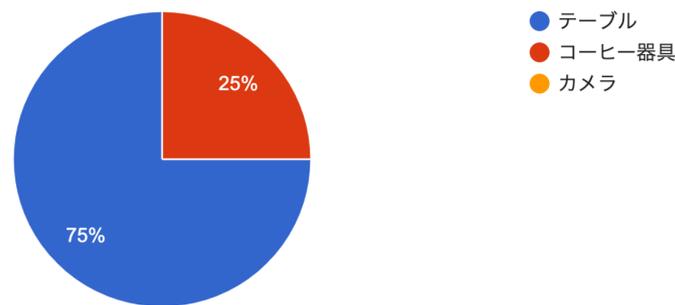
今回のイベントをどこで知りましたか

16件の回答



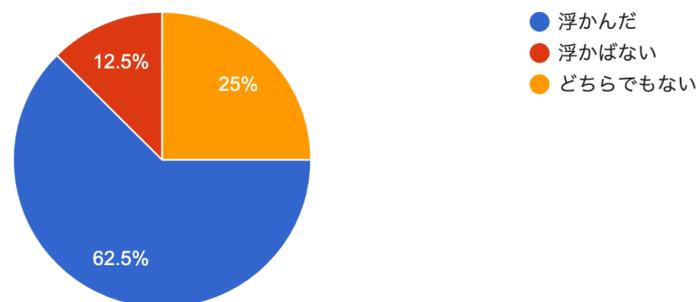
試作品を実際に見て、良いと感じた試作品を教えてください

16件の回答



試作品を実際に見て、使い方のイメージやアイデアが浮かびましたか

16件の回答



浮かんだイメージやアイデアの内容、もしくは浮かばなかった理由を教えてください

16件の回答

- ・ 屋外で友人とお家カフェ
- ・ 普段生活で使用するものが作品になっていたため。
- ・ カフェのテーブルにつかえたらおしゃれだなと感じました。
- ・ イベントのカウンター
- ・ 屋外にて、焚火にこのコーヒー器具を使っている様子
- ・ 改良し、軽量化を図るとともに、障がい者でもかんたんに扱えるような器具になると発展性がありそう。
- ・ ゆっくり見る時間がなかったため。
- ・ テーブルはいろんな空間で使えるものだと思うので、イメージが付きやすかったです。
それぞれの現段階に至るまでのストーリーや、製品に対する作者の想い・意図、プロトタイプなども具体的に見れたら、より現実的に想像ができるかもしれないと思いました。
- ・ 大量生産品とオーダーメイドの中間品はニーズがあると感じた。溶岩のオブジェはホテルのロビーに合いそうだった。
- ・ イベントの受付
- ・ ごめんなさい、ほとんど見てなかった。人と話してました。
- ・ 現状で家具は足りているため、すぐには思い浮かびませんでした。
- ・ 木の端材とアート作品の一体化によるインテリアやドア等があれば、生活が楽しめそうです。
- ・ カウンターとしての使用
分解してそれぞれ使えないかな？笑
- ・ 実物がみれ、イメージが膨らんだ。
- ・ 普段使う機会がないため、イメージできなかった

今後、共創プロジェクトについて、どのような立場に関わりたいと感じましたか
16件の回答

- 地域事業者との連携・紹介
- 町の事業者との橋渡しの役割として関わることができたら関わりたいと思いました。
- 事業者の公的な支援
- 支援側
- コーディネーター
- 行政的支援や情報提供・共有、橋渡し
- 需要と供給を繋げられるよう、情報をお伝えできれば👍
- 応援しています。
- 商品化を楽しみにしています！
- アーティストと空き家を繋げられるような関わり方をしたい。
- 運営協力
- 少なくとも次回も見学には行きたいと思いました。
- 可能性があるとするば、アーティストの紹介です。
- また出店させていただきたいです
- プロジェクトと広げる立場
- とても素晴らしい今後必要なプロジェクトだと思いました。

メディア掲載記録

掲載日：3月7日

掲載メディア：あなたの静岡新聞

URL：https://www.at-s.com/news/article/shizuoka/1203856.html

2023年3月17日(金) | あなたの静岡新聞 | 有料プラン 申し込み

静岡新着 | 知っとこ | 追っかけ | 全国新着 | @S | SBS TV | SBS RADIO

アーティスト×静岡県東部企業が協働 新製品開発へ試作発表 長泉のまちづくり会社企画

2023.3.7

東部総局 菊地真生

手がけるのは日の出企画（山田知弘代表）。本年度の「アーツカウンシルしずおか」が採択したモデル事業の一環。制作の幅を広げたいアーティストと、販路を新規開拓したいものづくり企業を、同社と三島信用金庫が引き合わせた。図面を描けるデザイナーを仲介役に入れながら、互いのアイデアと技術を組み合わせる新製品を生み出す仕組み作りを、120日間かけて試行した。



鮎壺の滝を題材に制作した溶岩のオブジェについて説明する滝戸さん（右）＝長泉町の下土狩駅前コワーキングスペース

同社が町の委託を受けて運営する下土狩駅前コワーキングスペースで3月上旬、試作品の発表展示会「日常+α」を開催した。真ちゅう製の脚と一枚板を組み合わせたテーブル、デザイン性の高いコーヒーマグ（ばいせん）器具など、採算やロット数を度外視した試作品が並んだ。

都内で活動するアーティスト滝戸ドリタさん（静岡市清水区出身）は、植物専門店や建築関係者らの協力を得て、コケを植え付けた溶岩のオブジェを制作。溶岩を惑星に見立て、近くに観測用のウェブカメラも設置した。「鮎壺の滝が題材。公共施設やホテルのロビーなどのインテリアに活用できないか探っている」と話した。

山田代表によると、アーティストと地域産業が交わることで、大量生産品とオーダー品の中間にある新製品が生まれる可能性がある。今後は同信金や同社が販路や

AQUOS sense6 SH... 31,724... AQUOS sense7 SH... ¥54,23...

Galaxy A53 5G SC-53C ¥59,40... Xperia 10 IV SO-52C 53,152... -17%

docomo OnlineShop

静岡新聞 朝刊で連載中!

3分塾

週間アクセスランキング

- 水筒飲み干し、服脱ぎ捨て【届かぬ声 子どもの現場は今⑩/第1章 河本千奈ちゃん⑩あの日、最後まで生きよう】
- 高校長級18人退職 静岡県内公立校 小中学校は120人
- 回り続ける園の日常 早期再開望む声に孤独感【届かぬ声 子どもの現場は今⑩/第1章 河本千奈ちゃん⑩保護者説明会】
- 「なぜ娘が」問い続け 低い安全意識、根底に何が【届かぬ声 子どもの現場は今⑩/第1章 河本千奈ちゃん⑩半年が流れて】
- 「実り多く」名に願う 幸せ奪われ「地獄の毎日」【届かぬ声 子どもの現場は今⑩/第1章 河本千奈ちゃん⑩誕生、入園】
- 沼津にコストコ再販店「イーコスト」 17日オープン
- Q&A 徳川家康の正室/側室ってどんな人？ 何人いたの？ それぞれの子どもは？ 静岡市歴史博物館の学芸員さんに聞きました
- 天真爛漫、人懐っこく パス「楽しい」前夜に話す【届かぬ声 子どもの現場は今⑩/第1章 河本千奈ちゃん⑩大好きだった幼稚園】
- 失われた安全 酷罰のバス、消えた命【届かぬ声 子どもの現場は今⑩/序章 川崎幼稚園 ⑩】